

# PTAニュース

No. 3

令和4年7月  
PTA本部

今年はとても早い梅雨明けで、一気に暑くなってしまいました。  
PTA本部では熱中症対策として経口補水液OS-1を購入しているの  
ですが、今年はずっとより早めに用意しなければ！と準備してい  
ます。

皆さんも熱中症にはお気をつけください。

あいさつ運動が盛り上がっています！  
6月9日は少年補導委員会向日支部さんと合同で行いました。  
市長と教育長も来てくださいました。

参加した保護者からは  
「あいさつが子どもから返ってくるのが嬉しい！」  
「自分の子どもだけじゃなく、子どもの友達の成長も感じられて楽しい！」  
との声が聞かれました。



いつも、あいさつ運動に参加してくださっている地域の方にお話を  
聞きました。

「初めは、私が勝中の保護者だったときに本部役員をしていたので  
あいさつ運動に参加しました。子どもの卒業後も、その時の元本部さ  
ん達や先生繋がり、気がつけば7年間参加させて頂いてます。  
2人子どもがいるんですが、正直、本部をやった2人目が1年生の時ま  
で、あいさつ運動があるって、知らなかったです。  
自身の子どもの大学生になり、就職し、参観や行事などでのたくさん  
の人と接する機会が少なくなってきたのですが、あいさつ運動で生徒さ  
ん達からパワーをもらってます。1日の始まりに、生徒さん達や通学  
中の小学生さん、出勤中の方や散歩中の方達に、声をだしてあいさつ  
が出来て、私が元気をたくさんもらってますよ。

『人との出会いを大切に』ですね！』

勝山中学校では、あいさつの大切さを子どもたちに伝えることと、  
学校・家庭・地域が協力して子どもたちを見守ることを目的として  
あいさつ運動を行っています。

先生・各委員・本部役員や、保護者・地域の方で行っています。  
「学校の様子が見てみたい」「朝の子どもたちはどんな感じかな」  
などなど思われている方はどなたでも一緒に参加していただけます。  
次のあいさつ運動は8月26日(金)8時～8時半です。  
参加してくださる方は当日7時55分に正門へお越しください。



あいさつ運動今年度の予定

8/26(金) 9/26(月) 10/13(木) 11/22(火) 1/10(火) 2/21(火)

6/18に乙訓PTA指導者研修会が大山崎町体育館でありました。

テーマは「子どもも親も自己肯定感をはぐくむ子育て」で、講師は子育て教室「ノブリの森」代表の森かほりさんでした。内容を少し報告します。

自己肯定感とは、自分を積極的に評価して、自分の価値を肯定できる感情を意味する言葉で、短所を含め、ありのままの自分に満足している感情です。自己肯定感が高い子どもは、自分の可能性を信じ、自分はできるという自信をもっている傾向があります。また、自分の基準がしっかりあるので、周囲と比べても不安や焦りを感じる事が少ないと言えます。

例えば、失敗した結果についてマイナスに受け止めて終わるのではなく、「もう一度挑戦したらできるだろう」「成功するために頑張る準備をしよう」と立ち直り、気持ちを高めることができます。自己肯定感とは、人への思いやりや、自信を持って物事に挑戦する意欲を育むためのベースです。

子どもの話を聞かなかつたり何事も結果で判断してしまうことは、子どもの自己肯定感を低くする原因になります。子どもの話をきちんと聞いてあげる習慣をつけることで、自己肯定感を高めてあげましょう。

子どもの話の内容が「相談」だった場合、答えをあげるのではなく、相談している子どもの気持ちを理解しましょう。「それは、困ったね」「悲しいね」などと、共感してあげるといいでしょう。子育て中は、他人の子どもや兄弟たちと比べてしまいがちですが、子どもの自己肯定感を高めるために、他人と比較しないようにしましょう。

また、身近な関係だと省いてしまいがちですが、日常生活の中で子供に感謝の言葉をしっかり伝え、自己肯定感を高めてあげましょう。「ありがとう」は人から感謝され、必要とされていることを実感できる言葉です。子どもが良いことをしたらその都度「ありがとう」と伝え、言葉で気持ちをあらわすことが大切です。

大人も完璧ではないので難しい部分もありますが、子どもの自己肯定感を高めるために、子どもはありのままでもいい、と受け入れる努力が必要です。

子育てには正解がなく、苦勞の連続で悩み、大人が「自分はダメだ」とへこむことがあります。そんな時は、まず自分の気持ちを整えることが大切です。自分自身の自己肯定感を高めることで気持ちに余裕ができ、自然と子どもに対しても理想的な対応ができるでしょう。

HSC (Highly Sensitive Child) というのをご存じでしょうか。日本語では「非常に敏感な子」と紹介されています。音や匂いに敏感で、にぎやかな場所や集団行動が苦手といった傾向があり、学校生活に馴染めずに不登校などの原因になるとも言われている、生まれつきの性質を表した言葉です。人種や性別に関係なく5人に1人はHSCともいわれており、実は多くの人を持っている性質です。

例えば、「大きな音を嫌がったり肌に触れる服の素材を気にするなど感覚に敏感」「人が大勢いるところではすぐに疲れてしまう」「人が怒っている声が苦手」「ちょっとしたことで傷つく」といったことに思い当たる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

HSCの子育てにも自己肯定感をはぐくむ接し方は大切と言えます。

